

<会員による自著紹介>

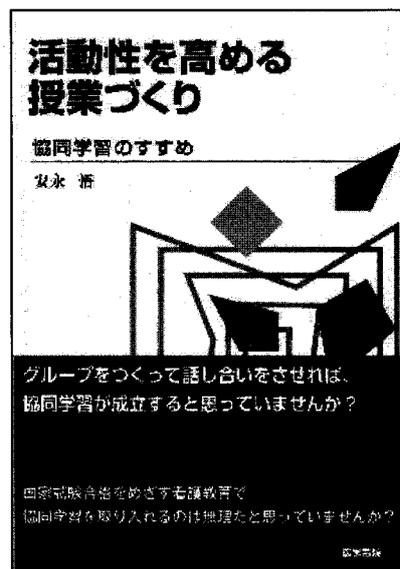
活動性を高める授業づくり —協同学習のすすめ—

安永 悟

久留米大学

医学書院（2012年発行）

定価 2,400円（税別）



社会で活躍できる人材を育成するためには協同による活動性の高い授業づくりが有効である。本書では、そのような授業を実現するために必要な理論と方法を、スライドやQ&Aやコラムを使って、協同学習の初学者にもわかりやすく解説した。

社会で活躍できる人材とは、つねに変化成長を求めて主体的に学べる人である。どんな状況におかれても、目的意識をもって、主体的かつ論理的に考え、自分のことばで語り、仲間と交流して、根源を問い続け、現場で成果をあげられる人である。つまり、学士力と通底する能力をもった人といえる。

協同による活動性の高い授業とは、授業に参加しているすべての学生が、自他の学習過程に深く関与し、主体的かつ積極的に学び合える授業である。学生が時間を忘れて没頭できる授業ともいえる。そこでは参加者全員が協同の精神で結ばれ、支持的な雰囲気の中かで積極的に交流でき、充実した時間を過ごすことができる。その結果、一人ひとりの理解が促進され、満足度の高い授業が展開する。

活動性の高い授業の実現に向けて大きな役割を担うのが協同学習の理論と技法である。協同学習のもっとも簡単な定義は「小グループの教育的使用であり、学生が自分の学びと仲間の学びを最大にするために共に学び合う学習法」である。その特徴は、グループ活動が意図的に計画され、参加した学生は学習目的の達成に向けて仲間と協力して学び合う点にある。従来から多用されてきた単なるグループ学習とはまったく異なる。グループをつくって話し合いをさせれば協同学習が成立するものではない。

本書は、もともと雑誌「看護教育」（医学書院）に1年間連載した内容を組み替え、加筆修正したものである。しかし、看護師教育に限らず、あらゆる教育現場においても有用性の高い内容に仕上げた。皆さんの授業づくりの参考にさせていただければ幸いである。